



世界湿地の日
2017年2月2日
湿地と防災・減災



湿地：災害に対する自然の安全機能

洪水や熱帯サイクロン、干ばつなど、気候や気象に関係して起こった世界中の自然災害の頻度は、このわずか35年の間に、2倍以上になりました。

国連水関連機関調整委員会 (UN Water) による推定では、自然災害の90%は水に関連したものとなっています。そして、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) は、今後もっと極端な気象現象が起きると予測しています。

犠牲者の多さは悲劇的です。1996年から2015年の間に起きた災害のために、135万人が亡くなりました。このうちの90%は収入の低い国と中程度の国の居住者です。また、1980年から2014年の間に、気象関連の災害によって3兆3000億ドルの物的損害が生じています。

災害それとも自然の脅威？

私たちは、洪水、干ばつ、津波、サイクロンやハリケーン、地震などの極端な現象を災害と考えます。ですが実際には、これらの現象は自然本来が持つ脅威です。災害とは、地域社会や国の、人や物、経済や環境に損害をもたらす深刻な破壊のことをいいます。



災害の被害を最小限にするために湿地を活用する

季節的あるいは永続的に冠水する土地、と定義される湿地は、災害に対する自然の緩衝帯です。

沿岸域の湿地は、私たちを守る自然の緩衝帯の役割を果たします。たとえば、2012年に起きたハリケーン・サンディでは、湿地のおかげで6億2500万ドル以上の被害を回避することができました。内陸の湿地は自然のスポンジの役割を果たし、降りすぎた雨を吸収したり貯えたりすることで洪水を抑えます。乾季には貯えていた水を少しずつ放出し、干ばつを遅らせたり、水不足をやわらげたりします。

湿地を適切に管理すれば、たとえ以前よりも災害が激しさを増したとしても、地域社会のレジリエンス (適応力) が高まり、災害に備え、対処し、災害から復旧することができるようになります。

1. 災害への備えと防災

災害の影響を抑えるための事前の策として、洪水や嵐の影響を受けやすい地域の湿地を保護区に指定し、自然本来の緩衝能力を高めることが考えられます。セネガルのサルームデルタ生物圏保護区は、河口、湖、湿原で構成されています。この湿地は、洪水を調節する機能を持ち、一年を通して人や動植物が淡水を得ることを可能にしています。国際自然保護連合 (IUCN) は、セネガルの地域社会とともに、劣化した湿地の

再生や、持続可能な農業・観光業・漁業の推進に取り組んでいます。

2. 災害への対処

極端な現象に見舞われたとき、健全な湿地は、そのショックを幾分か吸収するクッションのような働きをして地域社会における被害をやわらげます。スリランカのヒッカドゥワでは、沖合のサンゴ礁が海洋公園として保護されており、2004年に津波が発生した際は、その被害を、海岸から内陸に向かってわずか50mの地点までに留める役割を果たしました。一方、近くのペラリヤでは、サンゴの採掘によってサンゴ礁が劣化しており、被害は海岸から1.5kmの地点にまで及びました。

3. 災害からの復旧

湿地は、水をろ過し、栄養素を貯蔵する機能があるため、災害からの復旧の速度を速めるとともに、より良い状態に復旧する助けにもなります。1999年にインド東部のオリッサ州を襲ったサイクロンの後、マングローブに囲まれていた水田は、緩衝帯のなかったほかの農地に比べて、極めてすみやかに食糧生産を再開することができました。

健全な湿地を維持し、劣化した湿地を再生することによって、また災害に見舞われてしまった場合にも、地域社会では前よりうまく対処できるようになります。



#WetlandsForOurFuture - #WorldWetlandsDay - www.worldwetlandsday.org

World Wetlands Day is made possible by the Danone Fund for Water.